

# 2011年度 第1回 人権フラザ天白 社会同和教育講座

にち  
日  
ば  
場  
こ  
講

じ  
時  
しょ  
所  
し  
師

2011年7月17日(日)13時30分から

てんぱくだい しゅうかいじよ  
天白第二集会所

ぼうさいしみんかいぎ ぼうさいいちざ だいひょう まつのひろし  
みえ防災市民会議「防災一座」代表 松野博さん

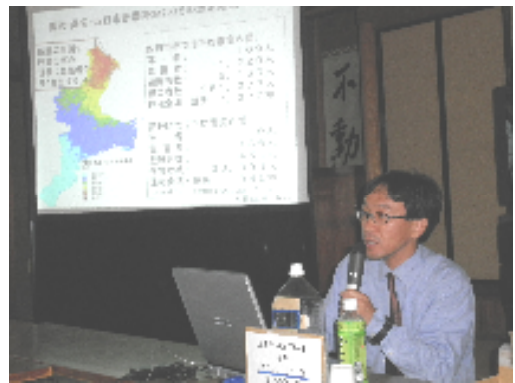
## 日永地区は地震にも水害にも弱い土地です。 リスクを考えることからこの町の防災が始まる。

被災地の宮城県女川第一中学校バレーボール部にユニフォームが届けられたという記事を新聞等でご覧になった方もおありでしょう。被災地支援活動で知り合った子どもたちとの約束が実現したのだそうです。贈り主は、みえ防災市民会議『防災一座』の皆さん。今回、その代表を務めている松野博さんから「防災とまちづくり」をテーマにお話を伺いました。

東日本大震災が起きたからではなく、普段から「防災」意識を高めることを呼びかけてきた松野さんは、三酒の豊かな自然とそこに生きる人々を守るため、「備えよう！三重 次は三重の番です」と警鐘をうながしています。とりわけ、海拔が低くわずかな増水でも浸水してしまう日永地区においては、「防災するのが当たり前のまちづくり、人づくりが求められている。そのまちの人たちが自ら気がつかなければ意味がない(気づいてからでは遅いこともあります)。なめてかかるととんでもないことになる」とやや手厳しくおっしゃられました。

私たちができること、すべきことは、「自分だけは大丈夫」と思っている根拠のない自信から脱出することです。私たちはもうするべきことを知っている。あとはこれを本気でするだけ。でも、わかっているのになかなかやらない。ちょうど、夏休みの宿題を9月1日にもっていかなければならないのはわかっているのにやろうとしないのと同じ。うまいたとえだと思いませんでした。防災を意識して実践する必要を気づかされました。

内容のびっしり詰まった2時間のお話はあっという間に過ぎました。今日も新聞には震災による死者数と行方不明者数が載っています。「簡単に言ってしまいますが、この一つ一つに一人の人生があります」と聞くと、あらためて「防災」とはまさに「人権」なんだと思いました。



ダンボール箱とゴミ袋で作った簡易トイレ